



四季 ~四中の季節~

第2号 (5月)

教育目標 ●自分で考え進んで実践する人間 ●公共心に富み情操豊かな人間
●勤労を尊び責任を重んじる人間 ●健康でたくましい人間

令和6年5月7日発行

校長 関 勝 志

〒187-0045

小平市学園西町1-3-1

☎ 042 (341) 4344

Mail gakkou@34.kodaira.ed.jp

『人間は考える葦』 よく考え、話し合おう！

校長 関 勝 志

令和6年度が始まって1か月が経ちました。授業をはじめ、学級活動や生徒会活動、部活動など、すべての活動が全校生徒によって動き出しました。新たな学年のスタートにあたりヤル気満々、また環境が変わったことによる緊張感で疲れが出始める頃ですが、3週間後には運動会が控えています。心と体のバランスをとりつつ、うまくペース配分をして生活してほしいと思います。

小平四中の校庭の池には、金魚や錦鯉が泳いでいます。そして、春になるとカルガモがやってきます。6月頃になると、気の合った雄鳥と雌鳥が番（つがい）となって茂みの中に巣をつくり、やがて雛（ひな）が誕生します。カルガモの親子は、2~3日すると池を出て、母鳥を先頭に一列に並んで校庭を歩いて玉川上水へと引っ越して行きます。その愛らしい姿は四中の夏の風物詩となっています。カルガモは四中の大切な仲間なのです。そのカルガモ池に茂っている植物はなんでしょう。あれは「葦（アシ）」です。



17世紀にフランスで活躍したブлез・パスカルという科学者（哲学者）を知っているでしょうか。数学における「パスカルの定理」や「パスカルの三角形」は有名です。そのパスカルが書いた書物である随想録「パンセ」の中に、『人間はひとくきの葦にすぎない。自然の中で最も弱いものである。だが、それは考える葦である。』という一節があります。そして、『人間は考える葦である』という有名な言葉として後世に残されています。

「葦」はヨシとも呼ばれ、水辺に群生する、ススキに似た穂をつける多年草で、弱々しいものを代表しています。この言葉は、人間というのは弱い面もたくさんもっているが、「考える」という働きがあるから偉大であるということの意味をしています。人間にとって、「考える」という行為はとても重要だということです。

インターネットが発達した現代においては、分からないことがあってもパソコンで検索すれば、すぐにそれなりの答えを手に入れることができます。でも、それらは必ずしも正しいとは限りません。また、生成AI（人工知能）が普及し、文章も簡単につくることができるようになりました。でも、それらは自分が生み出した考えや気持ちを表した文章や言葉ではありません。

問題や困難に直面したときによく考えて答えを導き出したり、よりよい社会をつくろうとしたり、よりよく生きていこうとしたりできることが、他の生き物とは異なる人間の優れた能力です。でも、便利な世の中においては、じっくり考えることが少しずつ減ってきているのではないのでしょうか。

『三人寄れば文殊の知恵』ということわざがあります。文殊とは知恵をつかさどる菩薩（修行途中のお釈迦様）のことです。一人ではよい知恵が浮かばなくても、三人が集まって相談すればよい知恵も出てくるというたとえです。話し合うことの大切さを意味しています。

小平市では、6月8日（土）を「こだいら特別活動の日」として、すべての小中学校において、学級での話し合い活動の授業を公開します。学級会（話し合い）の目的は、よりよい学級づくりです。

本校では、ちょうど令和になった年から、よりよい人間関係づくりと学級づくり（自治的能力の向上）に取り組んできています。そのために必要不可欠なのが、よく考えて自分の意見を持ち、話し合い、合意形成をするという活動です。

合意形成とは、多様な意見がある中で、全員が納得できる状況に導くための話し合いのことです。安易に多数決で結論を出したり、少数意見を切り捨てたりしません。多様な意見を出し合い、聞き合います。そして、意見を比べ合い、他の人の意見のよいところに着目したり、補足して分かりやすく整理したり、いくつかの意見を組み合わせる新しい考えを創り出したりしながら、学級としての意見をまとめていきます。全員が納得（合意）できる意見にまとめるのは簡単ではありません。十分な合意を得ることができないことも多いと思います。でも、合意形成するプロセスを積み重ねることで、学級のこどもたちの自己理解と相互理解が深まり、学級は成長していきます。

そして、これらの活動「特別活動」は、学級の成長が終着点ではありません。将来、こどもたちが学校よりもっと大きな社会（世界）で生きていく中で、よりよい人間関係を形成するとともに、よりよい社会づくりに参画・貢献し、ひいては自己実現を図るための力、「生きる力」を養うことにつながります。

私たち（おとな）にとっても、職場や地域、家庭の中で、よく考え、話し合い、合意形成することは、とても大切だと思います。

「1年生の様子」

学年主任 岩崎 昌之

中学校という新しいステージでの生活に期待と不安を抱えながら迎えた入学式。あいにくの雨でしたが生徒たちは堂々と立派な態度で取り組み、晴れやかで素晴らしいスタートを切ることができました。

入学式から1ヶ月が経ちました。初めてのことばかりで戸惑うことも多くありますが、授業や部活動、委員会活動など様々な場面で、一人一人が中学校で頑張ろうという気持ちを持ち、毎日元気に明るく生活しています。

これからも、この「初心」を忘れずに安全で安心な学校生活を送ることができるよう、教職員一同全力でサポートしていきたいと思えます。

また、生徒の成長のために、保護者の皆様には教育活動にご理解とご協力をいただき、連携を取りながら進めていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

「2年生の様子」

学年主任 小城 吉寛

始業式の日、新2年生のスタートは、次の日の入学式の準備から始まりました。そして新入生を迎えた入学式や対面式では、さっそく先輩としての役割を果たし、その後も「1年生のお手本に」「部活に後輩いっぱい勧誘しよう」という気持ちではりきる姿に頼もしさが感じられました。はじめは1年生のときのクラスが名残惜しそうなお人もいましたが、エンカウンターでお互いを知ったり、クラス目標を考えて共通のゴールをイメージしたりする中で、新しいクラスに少しずつ慣れ、授業にもどのクラスも落ち着いたよい雰囲気を取り組むことができています。

学年目標は「挑戦・自律・高め合い」です。失敗をおそれず様々なことに挑戦し、学習・行動・生活についてよく考えながら自律を意識して、かつ学年の仲間でお互いを高め合いながら、大きく成長できる1年間にしていきたいと思えます。

「3年生の様子」

学年主任 隠田 亮介

この1ヶ月、様々な場面で最上級生としての自覚や意志を感じるがありました。対面式では、新入生に向けて各委員会や部活動での紹介を行いました。主導したのはもちろん3年生。学校全体の先頭に立っていく最上級生としてのスタートでした。各クラスでは、新たに仲間になった級友たちとの関係づくりに励んでいます。最初はお互いに不安な表情をしている生徒も見受けられましたが、2年生の時のクラスメイトを紹介する他者紹介や、「3年生になって」の作文の読み合い、なんでもバスケット等を通し、少しずつクラスの仲間になってきている様子を感じます。

今年度は小平四中の「顔」として、「背中で語る3年生」となり、ひいては「学校をつくる」学年としてふさわしい取組や生活を目指していきたいと思えます。

■ 5月の主な行事 ■

- 1日 引き渡し訓練
- 2日 保護者会(1)
- 8日 クラス目標発表会
- 9日 眼科検診
※ 月曜日の授業
- 10日 薬物乱用防止教室
- 13日 全校朝礼 専門委員会
教育実習始
- 14日 中央委員会 耳鼻科検診
- 17日 音楽鑑賞教室(2) 避難訓練
- 20日 生徒会朝礼
- 21日 ※ 月曜日の授業
- 22日 運動会予行
- 25日 第60回運動会
- 27日 振替休業日
- 28日 運動会予備日
- 30日 ※ 月曜日の授業
- 31日 高校の先生のお話を聞く会(3)
教育実習終

■ 生徒の活躍 ■

<スキー>

ジュニアオリンピックカップ2024

全日本ジュニアスキー選手権大会

K2 男子回転 第3位 K2 男子大回転 第3位

※総合優勝 3D 小熊健祐

<陸上競技部>

第16回東京都中学生春季陸上競技会

女子100mH 第1位 3E 力石依里香

女子100m 第1位 2C 藤井日菜乃

<ソフトテニス部>

第10ブロック春季ソフトテニス大会

第3位 秋山・井本 組

第5位 高比良・畑農 組 / 黒田・星野 組

<卓球部>

小平市民大会 女子団体 第3位 Aチーム